

学校運営協議会による学校支援の組織的な取組み

揖斐川町立小島小学校

1 はじめに

小島地域づくり協議会は、地域の維持・発展を目的として、令和3年に設立されました。

一方、学校運営協議会は、地域と学校が連携・協働しながら、教育活動の充実を図り、これからの社会を担う子どもたちの健全育成を目指して、令和7年4月に設置しました。活発な活動を展開している小島地域づくり協議会との連携の在り方を模索しながら、地域と共に子どもたちを育てるためのさまざまな取組を進めてきました。

2 学校課題の共有

学校には、「子どもの安全・安心を守る体制づくり」や「将来を見据えた魅力ある学校づくり」などの課題があります。これらの課題を保護者や地域の皆さんと共有し、共に解決していくことが大切です。

学校運営協議会には、PTA会長や区長会長等、保護者や地域の代表が参加しています。会議では、学校の課題に対し、地域や保護者の皆さんからどのような支援をいただけるかを検討しました。その後、PTA運営委員会や人づくり部会でも協議を重ねました。

このように、学校運営協議会は、地域と課題を共有し、支援の方向性を明らかにする大切な場となっています。

3 小島地域づくり協議会との協働

小島地域づくり協議会には、5部会が設けられており、それぞれが持続可能なまちづくりに向けた取組を進めています。地域の活性化を目的とした「小島夏祭り」、夏休み中の子どもたちの学習や体験活動を支援する「夏休みわくわくB.A.S.E」等、多彩な活動を展開しています。

学校では、総合的な学習の時間を中心に、米づくりやホタル飼育、黒田神楽や白樫踊りの伝統芸能体験等、地域の皆さんから多くの支援をいただいています。6年生は、お世話になった方々との対談を通して、ふるさとを大切にする思いに触れ、自分自身の生き方について考える貴重な機会を得ました。また、学んだことをまとめ、授業参観や公民館祭りで発表しました。

こうしたふるさと教育を通して、多様な人との関わりの中で多くのことを学び、地域への愛着と誇りを育んでいます。



願いをもち笑顔で共に歩む子

組合立義基小学校

本校では、学校教育目標「願いをもち笑顔で共に歩む子」学び合い 認め合い」の具現に向け、学びたいこと、やりたいことが実現できるたくましい子を育てることを目指し、教育活動を行っています。

1 学びと活動の様子

学び合い、認め合う姿を具現できるように、授業ではペアやトリオ（3人組）学習班（4人組）など、学習内容や児童の実態に合わせた交流活動を授業に取り入れています。これらは随分と定着し、授業のいろいろな場面に位置づいています。

一方で、そうした学習を支える基礎学力を高めるべく、家庭学習にも継続的に取り組んでいます。漢字ドリルや計算ドリル、音読など、繰り返し習熟することが必要な学習に、児童たちは毎日取り組んでいます。

また、学習以外の活動においては、異学年の縦割り集団である『やぎっ子班』での遊びや児童会の各委員会による児童会活動なども活発です。こうした児童たちの主体的・自治的な取組の中で、やりたいことに進んで取り組む子、心が広く他者を思いやるやさしい子が育ってきています。

2 地域の皆さんによる大きな支援

こうした、学校の取組を支えていただいている地域の皆さんのご協力もとても大きなものです。『やぎっ子応援ボランティア活動』では、校内でのスポーツテスト、地域探検などの校外活動等での協力をお願いしています。

また、登下校時には40名もの皆さんに見守り隊としてご登録いただき、毎日の登下校の安全を支えていただいています。揖斐川、池田の両町に校区がまたがる本校ですが、両町の地域からとても大切にされていることを実感する毎日です。



＜学校安全サポーターによる登校の見守り＞



みんなで考えよう! これからの学校教育の在り方。

第6回 学校教育の在り方審議会(答申策定に向けた協議内容) これからの揖斐川町の小中学校に必要な教育環境について

第6回 学校教育の在り方審議会・通常会議では、これからの小中学校に必要な教育環境に関する論点整理(広報「いびがわ」8月号9ページ参照)を踏まえて活発な議論が交わされました。以下に委員からの主な意見を紹介します。

・非認知能力(協調性、向上心等)は世界的にも注目されており、新しい学力観の中にも入ってきている。これからの学校教育の内容に位置付けるべき。

■必要な教育内容・教育方法

・生成AIの普及により学力観が変化してきている。対話力やプレゼンテーション能力も学力と考えるならば、一定程度の規模がなければそうした力を身に付けることはできないと考える。

・揖斐川町に移住して一番驚いたのは校長先生が全校生徒の名前を呼ぶことができること。教育の在り方を考えるうえでこうしたきめ細かな指導を大切にすべきことだと感じている。

・揖斐川町に移住して一番驚いたのは校長先生が全校生徒の名前を呼ぶことができること。教育の在り方を考えるうえでこうしたきめ細かな指導を大切にすべきことだと感じている。



■学校統合の必要性

・揖斐川町では、面積の広さと地域の文化の継承が課題になると考えている。

・飛騨市と揖斐川町は立地も環境もよく似ており、視察を通じて揖斐川町も小中学校をそれぞれ1校に統合したり、大規模な学校としたりする必要はないのではないかと考えるようになった。

・幼児園保護者からの意見聴取では、多様な友人関係や集団活動の充実、クラス替えの可否等の観点から、規模の大きな学校で子どもを育てたいという意見が多かった。

・何らかの学校統合が必要という方向性は共通認識として感じた。今後は、学校を統合した場合のデメリットをいかに解決するかを整理する必要がある。

■学校統合する場合の規模と時期

・まずは学校統合が可能なところのみ統合して小中学校を2〜3校ずつでもよいのではないかと。

・1小1中で同時期の統合という案に賛成。また、学びの多様化や学び方を選択できる環境という意見についても非常によいことだと思う。そうしたさまざまな展開を一つの学校で行うには、一定程度の規模(集団)が必要ではないか。

■学校統合する場合の場所

・安全性が確保されている北和中学校を意識しつつ、均等な距離や時間にある場所として人口重心地に設置するのが望ましいと考える。

・学校を統合するのであれば、予算をできる限り抑えつつ中学校を1校にする場合は、北和中学校のあたりが位置的によりよいと思う。



・学校統合する場合に使われなくなった校舎を、学校に通うことが難しい子どもたちが集まる場所として活用できないかと考えている。

・揖斐小学校の校舎をなくしてしまうのはもったいないのではないかと。揖斐小学校の周辺には、スクールバスのターミナル等に活用できそうな土地もある。また、人口重心の話があったが、北和中学校のあたりまで通うとなると清水や胫永からはかなり遠いので、町全体で学校を1校に統合するのは難しいのではないかと。

■設置可能な学校形態

・義務教育学校に賛成で、その他資料2の図に示されている学校は全国にもあまりないものだと思うので、この義務教育学校の中に夜間中学や学びの多様化分教室をつくるという方

針で進めていくのがよいと思っている。

・夜間中学については揖斐川町にどの程度のニーズがあるのか疑問があり、予算も必要となる以上、どこまで実施することが可能だろうかと思っている。

■まとめ(今後に向けて)

・子どもたちの多様性を受け止められる環境をつくること、これからの方向性の中に入ってくるようになる。また、地域の文化や思いに関する意見もあったが、学校統合する場合の各地域の位置付けがどうなるかについても明確にしなければ合意を得ることは難しく、そのことを十分勘案することも答申に盛り込む必要がある。

・今ある各地域の小中学校の存続可能性について留保されている状態だと考える。そのため、あらためてその可能性についてシミュレーションを行ったりで事務局から検討案を出していただき、判断してはどうか。

・人口動態等については、すでに共有されているが、段階的に学校統合をする場合の財政への影響など、さらなる情報共有を受けたうえで議論すべきかと思うが、事務局としてはどう考えるか。



(学校教育の在り方審議会HP)